



川に見る・日本の四季① 利根川水系の「春」を追う

深く澄んだ溪谷で、花に酔う。

4月の初め。“川と花”の取り合わせを求めて北関東へ。年々開花が早くなる桜を気にしながら、渡良瀬川沿いをさかのぼる。足利から桐生、そして大間々(群馬県)。ここで直感が働いた。近くに溪谷があるはずだ。

わたらせ溪谷鉄道・大間々駅から歩いて10分ほどで視界が一変した。高津戸峡だ。日本百名山の皇海山に源を発した渡良瀬川が、足尾の山間部から関東平野に流れ込む間際にできた溪谷で、別名を“関東の耶馬溪”。溪谷を往復

して、とらえたのが桜の一枚。

早春の光に映える桜の美しさは格別で、飽くことなく眺めた。深く澄んだ溪谷の流れも、花に酔っているようだった。



(上) 草木ダムがつくった草木湖畔ではツツジの橙色と、若葉の黄緑色とのハーモニーが絶妙な春の配色。

(中) 草木湖のほんの少し川上の沢入駅は、ホームから渡良瀬の清流を見下ろせるので人気のスポット。ホームから遊歩道で河畔へ下りると、温んだ水で遊んでいた淀みの稚魚たちが、足音に驚いてさっと散った。

(下) 渡良瀬川と合流した利根川沿いに一気に下る。目的の菜の花と、神崎町(千葉県)で出会った。満開の菜の花と悠々たる大河の流れ。すでに、春全開だった。